

陳述書

2024 年 10 月 3 日

氏名

今回の国の反論には、ピルや IUS（以下、「ミレーナ」と言います）があるから不妊手術をしなくても避妊が出来る、むしろ不妊手術よりもピルやミレーナの方が身体に対する侵襲性も低い等の記載がありました。

しかし、私はピルの禁忌にあてはまるため（血栓性素因）、ピルの使用には不妊手術よりもよほど危険が伴います。また、ピルは年齢的な制限もあり、40歳を過ぎると処方を受けづらくなるため、今後もずっとピルのみで避妊を続けることは出来ません。

ミレーナについても、経膣分娩の経験がない（帝王切開含む）患者には子宮頸管拡張を行うとしているクリニックが多く、他方で部分麻酔に対応しているクリニックは殆どありませんでした。そのため、ミレーナを出し入れするたびに無麻酔で子宮頸管拡張を受けなければならないことになり、とても耐えられるとは思えません。私が調べた限りでは、経膣分娩や性交経験のない患者に対しては、痛みのリスクからミレーナ挿入を推奨しないクリニックが多数派で、やはりミレーナの挿入には強い痛みが伴うのだと思います。仮に全身麻酔で対応可能だとしても、5年に1回全身麻酔を受けることにはやはり危険が伴うはずで、国が主張するように、不妊手術には麻酔が必要ですが、一度の麻酔で済む不妊手術の方が、5年に一度麻酔を行うよりも麻酔によるリスクが少ないことは明らかだと思います。

以上